



公益社団法人
福岡市シルバー人材センター

三十周年記念誌



Contents

ごあいさつ

鹿野 至 理事長	1
小川 洋 福岡県知事	2
高島宗一郎 福岡市長	2
森 英鷹 福岡市議会議長	3
須藤 忠雄 公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会会長	3

センター30年のあゆみ	4~5
-------------------	-----

20周年以降の主な出来事を振り返って

設立25周年記念事業	6
中長期計画策定	6
公益社団法人への移行	7
有償ボランティア事業「ワンコインお助け隊」	7

歴代役員	8~9
------------	-----

活動状況

東出張所	10~11
博多出張所	12~13
中央出張所	14~15
南出張所	16~17
城南出張所	18~19
早良出張所	20~21
西出張所	22~23

30周年記念座談会	24~27
-----------------	-------

事業実績の推移	28
---------------	----

予算決算の推移	29
---------------	----

会員・発注者アンケート

センターに入会した動機など	30
発注者意識調査からみた事業の現状	31

互助会活動	32
-------------	----

編集後記

表紙題字は有田知榮子会員（筆耕班）に揮毫いただきました。



30周年を祝して



理事長 鹿野 至

公益社団法人福岡市シルバー人材センターは昭和58年6月に社団法人として創立され、本年でめでたく30周年という節目の年を迎えることができました。

創立当時は726名であった会員数も現在は約7千人、受託件数も1,703件から現在では1万4千件と、当センターは順調に発展を遂げてまいりました。

これも偏に、地域をはじめ関係諸団体の皆様のご支援とご協力、そして、会員の皆様のご尽力の賜であり、深く感謝申し上げます。

さて、当センターの30年間の歴史で、もっとも大きな出来事の一つは平成24年4月1日の公益法人化です。当センターは長年にわたり「高齢者の福祉の増進を目的とする事業」、「勤労意欲のある者に対する就労の支援を目的とする事業」、「地域社会の健全な発展を目的とする事業」と、公益性の高い事業を実施してきており、このことから平成22年の通常総会で公益社団法人を目指すことを決議しました。

公益法人移行にあたっては、組織や事業運営のあり方、更には会計処理など、すべての面において福岡県の厳しい審査がなされ、審査時の指導内容に基づき必要な改正等を行いました。その結果、平成24年4月1日に公益社団法人として新たなスタートを切ることができたのです。

平成25年7月より、公益社団法人となったことも踏まえ、更なる地域貢献、社会貢献の実施を目指す、有償ボランティア事業「ワンコインお助け隊」を開始しました。この事業は、利用者である高齢者の方々には「日常の困り事を気軽に頼める」と喜んでいただき、会員の皆様には「社会貢献の機会がより広がる」と生きがいの増進になるものであり、大変有意義な事業です。この事業をきっかけに広く当センターを認知いただき一般の就業の受注にも繋がれば、という期待もされるところです。

最後になりましたが、当センターにおいては今後も引き続き、健康で労働能力のある会員が「社会の担い手」として地域社会において活躍できる機会の提供に努めるべく、就業開拓やボランティア事業への取り組みを行ってまいります。市民の皆様には、当センターの存在意義等をご理解いただき、当センターの活用とご支援、ご協力を、会員の皆様には当センター会員としてさらに積極的な地域貢献をお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

シルバー人材センターとともに「70歳現役社会」づくりの実現を

福岡県知事 小川 洋



公益社団法人福岡市シルバー人材センターが設立30周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

貴センターは、昭和58年6月の設立以来、地域の高齢者の皆さまの就業や社会参加の促進に多大な貢献をしてこられました。今日では、会員数は7千人、年間受注額は20億円に及び、県内最大のセンターとして大きな業績をあげておられます。役員ならびに事務局職員の皆さま、そして会員の皆さまのご尽力に敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

少子高齢化が急速に進むわが国において、社会の活力を維持していくためには、高齢者の皆さまが豊かな経験、知識、技能を活かし、活躍する社会をつくっていくことが不可欠です。

このため、県では、年齢にかかわらず、それぞれの意思と能力に応じて働いたり、NPO・ボランティア活動などを通じて活躍し続けることができる「70歳現役社会」づくりを重点施策として進めております。

平成23年9月には、シルバー人材センターをはじめとする高齢者関係団体ならびに経済界、労働者団体、NPO団体、行政からなる「福岡県70歳現役社会推進協議会」を設立し、県をあげて「70歳現役社会」づくりを推進することとしました。平成24年4月には、高齢者のための総合支援拠点「70歳現役応援センター」を、そして平成25年5月には県内2カ所目の拠点となる「70歳現役応援センター・北九州オフィス」を開設しました。この応援センターには、シルバー人材センターの相談窓口や、県がシルバー人材センターに委託している「ふくおか子育てマイスター」の受付相談窓口が設置されており、「70歳現役社会」の実現に向け、ともに手を携え、取り組んでいるところです。応援センターは非常に大きな反響を呼び、現在、たくさんの高齢者の皆さまにご利用いただいています。

団塊の世代の皆さまが65歳を迎えられ、今後、シルバー人材センターの役割はますます重要になってまいります。福岡市シルバー人材センターにおかれましては、30周年を契機に、70歳現役社会の重要な担い手として、さらに大きな役割を果たしていただくことを期待しております。

福岡市シルバー人材センターのますますのご発展と、会員の皆さまのご健勝、ご活躍を心からお祈りいたします。

高齢社会を支える重要な担い手として

福岡市長 高島 宗一郎



福岡市シルバー人材センター設立30周年を心からお慶び申し上げます。また、会員の皆様方には日頃から高齢者福祉をはじめ、福岡市政の各般にわたり格別のご理解とご協力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

貴センターは、昭和58年の設立以来、「自主・自立、共働・共助」の基本理念を掲げ、着実に事業実績を上げておられます。これはひとえに、歴代理事長をはじめ役職員並びに会員の皆様方のご尽力の賜と、深く敬意を表する次第であります。

さて、福岡市は、平成25年5月、政令指定都市では6番目に人口150万人を突破いたしました。全国的に人口減少が進む中で、人口が増え続ける魅力ある福岡市に発展しましたのは、ひとえに先輩方のおかげでございます。

本格的な高齢社会を迎え、皆様のような元気な方々が社会を支える重要な担い手として、地域社会で活躍されることますます重要になります。このような中、貴センターにおかれましては、平成25年7月から、地域貢献・社会貢献を目的とした有償ボランティア「ワンコインお助け隊」事業を開始されました。行政では対応することが難しい高齢者のちょっとした作業やお困りごとに取り組んでいただき、大変感謝しております。

福岡市といたしましては、会員の皆様が主体的に、就業活動、ボランティア活動などに幅広くご参加いただけるよう、今後とも貴センターの運営を支援して参りたいと考えております。

貴センターにおかれましては、会員数の拡大に引き続き取り組まれますとともに、地域の特性やニーズにあった事業を積極的に展開していただくなど、センター活動の更なる充実を期待しております。

最後に、福岡市シルバー人材センターの今後益々のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご多幸を心から祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

高齢者の生きがいの充実を

福岡市議会議長 森 英鷹



公益社団法人福岡市シルバー人材センター設立30周年にあたり、福岡市議会を代表いたしまして心からお喜び申し上げます。

設立から30年間、貴センターでは実に多くの会員の皆様が、生きがいを持って仕事やボランティア活動に励まれ、これらの働きは活力ある地域社会づくりに大いに貢献しているところであります。

貴センターが設立されました昭和58年には9.8%であった日本の高齢化率は、現在、約2.5倍の24.2%となっております。一方、福岡市の高齢化率は18.2%と全国平均に比べると低いものの高齢化は着実に進んでおり、将来推計では、平成29年に高齢者人口が31万6,400人となり、高齢化率は21.4%に達すると予測されております。もはや15歳から64歳までの生産年齢人口による労働力に加え、高齢者も可能な限り社会の担い手となる事が必要となっております。

こうした社会状況のもと、今後は高齢者一人ひとりが、いかにして生きがいを持ち尊厳を保ちながら、自立した生活を安心して続けることができるかが大きな課題となります。

働く意欲と労働能力のある高齢者の豊かで積極的な老後生活の維持や社会参加による生きがいの充実を実現する貴センターの役割は、まさにこの課題の解決に繋がる重要なものであります。

市議会といたしましても、高齢者がさらに安心して暮らすことができる社会となるよう、様々な施策の推進に努めてまいります。

福岡市シルバー人材センターにおかれましては、今後も引き続き、高齢者の生活充実と地域の活性化を実現されることを期待いたしますとともに、会員の皆様のご活躍とご健勝を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

設立30周年を祝して

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会会長 須藤 忠雄



公益社団法人福岡市シルバー人材センターが設立30周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴センターは、昭和58年に設立以来、長きにわたり「自主・自立、共働・共助」の理念の下に積極的にシルバー人材センター事業を展開され、多様なサービスを提供し、地域社会に大きく貢献されております。これもひとえに会員の皆様方と役職員のご努力の賜物と深く敬意を表します。

少子高齢化を伴う人口減少社会の下で、高齢者が生涯現役として多様な形態で社会参加でき、安心して充実感をもって生活できる社会を創りあげていくことが重要であります。昨年9月に閣議決定された『高齢社会対策大綱』におきましても、「地域の日常生活に密着した仕事を提供するシルバー人材センター事業を推進する」と掲げられており、地域の高齢社会を支える中核的な組織としての役割が一層期待されております。

センター30年のあゆみ

～設立までの経緯～

- 昭和50年2月 「江戸川区高齢者事業団」(東京都)発足 ※シルバー人材センターの出発点
- 昭和55年4月 シルバー人材センターに対する国庫補助制度創設
- // 12月 「全国高齢者事業団・シルバー人材センター等連絡協議会」設立
- 昭和56年8月 福岡市において「高齢者労働能力活用事業の実態調査」実施
- 昭和57年5月 福岡市民生局福祉課にシルバー人材センター設立準備担当主査設置
事務室を天神ファイブに設置
- 昭和57年7月 社団法人全国シルバー人材センター協議会設立
- 昭和58年6月8日 社団法人福岡市シルバー人材センター設立総会(於:南市民センター)
- // 21日 社団法人設立許可

～設立後30年のあゆみ～

- 昭和58年7月 事務所を福岡市社会福祉会館内(中央区大手門)に移転
- 昭和58年12月 「ふくおかシルバーだより」創刊(平成25年12月号は133号目の発刊)
- 昭和59年1月 違反広告物除去作業を受託
- 昭和60年2月 会員のつどい開始
- 昭和60年4月 寺子屋教室開設
- 昭和60年10月 福岡市自転車駐車条例に基づく有料自転車駐車場管理業務を受託
- 昭和61年11月 開拓委員等による事業開拓開始
- 昭和63年度 事務局の事務処理をO A化
- 昭和63年12月 「安全対策委員会」設置
- 平成元年3月 創立5周年記念誌「シルバー人材センターのあゆみ」発刊
- 平成元年度 会員現況調査を実施
- 平成元年10月 東部支部、西部支部開設
- 平成2年度 1会員1新入会員獲得運動推進
- // 会員厚生事業を充実 親睦旅行、ゲートボール大会、健康診断の助成等
- 平成3年10月 普及啓発活動月間に社会奉仕活動を実施 海の中道海岸を清掃
- 平成4年3月 資源回収器分別投入監視業務を受託
(現在も受託。「区役所・市民センター等資源物回収ボックス受付等業務」)
- 平成4年4月 中央部支部を専任体制へ
- 平成4年10月 優良シルバー人材センターとして
(社)全国シルバー人材センター協会会長表彰を受賞
- 平成5年5月 シルバー互助会創設
- 平成5年10月 設立10周年記念式典挙行(於:南市民センター)
- 平成6年1月 会員作品展開催(於:NHK放送センター)
- 平成6年3月 10周年記念誌「ふくおか」発刊
- 平成6年7月 東支部開設

平成7年4月	南支部開設
平成7年5月	会員事務補助員制度を導入
平成8年4月	公園等除草作業を受託
平成8年7月	西支部開設
平成8年9月	博多支部開設
平成9年5月	シルバーどんたく隊参加
平成10年1月	本部事務所、中央支部、大手門から六本松へ事務所移転 中央支部は中央・城南支部へ、城南区・早良支部は早良支部へ改編
平成11年7月	事務局の事務処理(基幹事務)をオンライン稼働
//	安全就業促進大会を開催
平成11年8月	国の緊急雇用対策による就業開拓専門員を各区に配置
平成11年10月	シルバーフェスティバルを開催(警固公園) (参加会員320人)
平成12年4月	福岡市配食サービス事業(愛称 まごころランチ)受託
平成12年10月	シルバーフェスティバル2000開催(天神中央公園)
平成13年8月	ホームページ開設
平成13年10月	シルバーフェスティバル2001開催(RKBラジオまつり共催)(参加会員49人)
平成15年3月	本部・博多支部、千代町(現在地)へ移転
平成15年4月	会員の就業年限に関する基準施行
平成15年5月	福岡市シルバー人材センター創立20周年記念式典挙行
平成16年3月	20周年記念誌「あゆみ」発行
平成21年1月	設立25周年記念式典挙行(1/22 市民会館・出席者726人)
平成22年4月	福岡県シルバー人材センター連合会と提携し一般労働者派遣業務を開始
平成22年5月	独自事業「シルバーギャラリー」活動開始
平成22年5月	公益社団法人への移行について定時総会にて承認
平成24年4月	公益社団法人福岡市シルバー人材センターとなる
平成25年7月	有償ボランティア「ワンコインお助け隊」事業開始

(参考) 当センターに関係するその他の出来事

昭和61年4月	第10回通常国会において「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」成立 ※シルバー人材センターが法律上指定法人として認知される
昭和61年10月	「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」施行
昭和62年10月	福岡県シルバー人材センター協議会設立
平成8年10月	社団法人福岡県シルバー人材センター連合会発足
平成12年	就業範囲の拡大(「臨時的」「短期的」就業に「軽易な」就業が加わる)
//	65歳までの雇用継続制度義務化(→18年から実施→平成25年完全実施)
平成16年	シルバー派遣事業創設
平成20年12月	公益法人制度改革三法の施行

20周年以降の主な出来事を振り返って

【設立25周年記念事業】

平成21年1月22日(木)に、福岡市民会館において、設立25周年記念式典を開催しました。

第1部の記念式典には774名の会員が出席し、福岡市長をはじめとした来賓の皆様にもご臨席いただきました。来賓祝辞、祝電披露の後、後藤達太理事長(当時)から、福岡市シルバー人材センターの発展に貢献いただいたお客様の21団体に、感謝状を贈呈しました。また25周年を祝して、会員による祝い舞や祝い詩が披露され、式典に花を添えました。

第2部では、記念講演に落語家の三遊亭歌之介さんをお招きし、独特のユーモアに満ちた落語を披露していただきました。会場はたびたび大きな笑声に包まれ、楽しい時間となりました。

最後に、互助会によるお楽しみ抽選会が行われ、盛大な式典は幕を閉じました。



25周年記念事業の一環として、平成21年3月4日(水)から8日(日)まで、「会員作品展」を開催しました。アクロス福岡交流ギャラリーに、絵画や書道、写真など会員の皆さんの力作を展示しました。期間中は、1,600人以上の方に来場いただきました。



【中長期計画策定】

「中長期計画」とは、会員の満足度の向上と地域社会に貢献するセンターとして、経営戦略(時代環境適応)・財務戦略(財務基盤の安定)・サービス戦略(提供サービスの“質”の確保)を確立し、会員一人ひとりが地域社会に関心を持って、地域の資源を守り活用しながら「共」に感じ「共」に働き「共」に創り「共」に楽しむことができる環境を創出していくことを目的とした計画です。

平成21年度に「中長期計画」を策定し、平成22年度～24年度を第1期、平成25年度～27年度を第2期、平成28年度～31年度を第3期と定め、この間に実施する事業の取り組み内容を具体的に示すものとして、「アクションプラン」をそれぞれの期間で策定しています。

現在は、平成24年度までの第1期アクションプランの実施報告を終え、平成25年度からの第2期アクションプランを検証・実施しています。



【公益社団法人への移行】



平成20年12月に「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」等の公益制度改革三法が施行され、当センターは公益社団法人もしくは一般社団法人のどちらかを選択する必要に迫られました。

福岡市シルバー人材センターが実施する「高齢者の福祉の増進を目的とする事業」、「勤労意欲のある者に対する就労の支援を目的とする事業」、「地域社会の健全な発展を目的とする事業」であることから、平成22年度の総会において、公益社団法人を目指すことを決議しました。

以降、公益法人化へ向けての準備を進め、平成23年度に福岡県知事へ公益認定申請を行いました。厳しい審査を経て、平成24年4月1日に福岡県知事より認定を受け、「公益社団法人福岡市シルバー人材センター」として新たなスタートを切りました。また、移行に伴って各区の支部も名称を出張所に改めました。

公益社団法人となったことで、地域社会からの信頼も増すことになり、更なる透明性・公益性が求められます。これらに応えられるよう適正な事業運営を行うことが重要です。

【有償ボランティア事業「ワンコインお助け隊」】

平成25年に新事業として、有償ボランティア事業「ワンコインお助け隊」を立ち上げました。元気な高齢者が助けを必要とする高齢者を支える、現代の高齢化社会のニーズに合致する有意義な事業です。具体的には、福岡市内在住の65歳以上の高齢者のみの世帯を対象に、買い物やごみ出し、電球交換などの高齢者では少し苦勞する作業を、100円または500円の利用料金をいただいております。

公益社団法人八代市シルバー人材センターが実施している「ワンコインながいきサポート」を参考に、プロジェクトチームを組み検討し、実現に至りました。



平成25年7月に事業を開始し、会員の皆さんによるPR活動や福岡市の広報誌「ふくおか市政だより」への記事掲載などもあり、申し込みも徐々に増え、順調な滑り出しとなっています。

有償ボランティア事業「ワンコインお助け隊」は、地域社会へ多大な貢献を果たす事業です。この事業が福岡市シルバー人材センターの存在を市民の皆様にも広く知っていただくきっかけとなり、センター事業のさらなる発展に繋がると確信しています。

歴代役員 昭和58年～平成2年

年度	設立年 昭和58年	昭和59年	昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	
理事長	中島忠輔					相羽 堯			
常務理事	藤田 猛	江田春雄			河野 功		河野昌太郎		
外部理事	笹渕 勇		松尾末彦		安土梢俊				
	小山田義人	縄田正保							
	吉田 智					弘岡康夫			
	福島義人		相羽 堯		中岡晴彦		牛原安彦		
	佐賀晴幸	井口雄哉		渡辺正人			穂屋下信吉		
	八尋 栄		富澤義敬				梶原 進		
	内堀卯助			黒木一夫					
	平地市治			松井 壽					
	古賀三郎				満島 進				
	柏木誠之助						池田裕道		
橋本真知子				森下ノブ		江頭ソノ			
鈴木 廣		川波洋行		野々口稔		神谷 誠			
会員理事	伊藤良雄				池田俊男				
	深見正次郎								
	松隈善臣		杉本苗真		前田三郎				
	高木順二		岡 具視						
	長 俊史						大坪俊郎		
	永浦三夫		田中 猛		黒岩律次		菊池龍一		
	佐藤敷夫		虎谷健一		山崎寅太		佐藤雅昭		
柏崎妙子						中島三嵯慧			
外部監事	福島 忠					河野安雄		三浦 勝	
会員監事	片山太郎			井上長利				黒岩律次	

平成3年～平成10年

年度	平成3年	平成4年	10周年 平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年			
理事長	相羽 堯							後藤豊彦			
常務理事	河野昌太郎	野原伸之				幸 晋次					
外部理事	安土梢俊	伊藤正行			浜崎 勝						
	縄田正保						藤村文彬				
	弘岡康夫			山手泰三							
	牛原安彦	生田俊明						檜橋貞雄			
	尾花 剛		古屋裕輔		西憲一郎		川口一隆				
	中村忠規	中島俊夫		原 康夫		山崎寛明		伊藤史夫			
					黒木一夫						
					松井 壽						
	廣瀬正則				小松基雄		井上長利				
	池田裕道			広瀬勝鮮							
梅根 文			横尾トミ								
神谷 誠											
会員理事	池田俊男				井上昭義						
	平井良行		中馬 魁		黒岩律次		高林純一				
	前田三郎				大家経久						
	岡 具視				中尾 学						
	大坪俊郎	平田萬壽生				大塚正道					
	菊池龍一			泉 長蔵		小松義徳					
	佐藤雅昭			播磨雅利		高林純一		西村哲夫			
	中島三嵯慧				中村 幸						
	吉原ミドリ			瀬尾スミノ			高橋武男				
				中川淳造		仲 連		仲 安彦			
						小川廣孝					
外部監事	林田正純		花田兎一		伊藤忠夫		脇山勝之		二又一人		
会員監事	黒岩律次			長 俊史		深見正次郎		池田俊男		中村 幸	

平成11年～平成18年

年度	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	20周年 平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
理事長	後藤豊彦			末藤 洋		後藤達太		
常務理事	久保賢一			野原伸之				
外部理事	浜崎 勝	南里勝利			-			
	藤村文彬							
	島村幸利				江頭恒夫			
	甲能貞行		宇野光明			齋藤和彦	川口一隆	
	木山光蔵		脇坂佳秀	鶴川 洋		石井幸充		
	伊藤史夫	中野英一		菊川英輔				
	黒木一夫		坂本 勝					
	松井 壽	谷 茂喜						
井上長利	濱崎良勝							
会員理事	井上昭義	仲 安彦		赤尾喜八郎		坂本達治		瀬野 甫
	高林純一	高橋武男			出利葉清		高野義雄	
	大家経久	八木亀三郎		肥後逸夫		橋本禎夫		
	中尾 学		山崎トミ子		稲富 實		和田克一	
	大塚正道				森田文丸		岡村吉員	
	小松義徳	大久保富雄		柴田澄彦		中村義隆		
	西村哲夫				大平政則		岩本嘉宣	
	入江登喜子		元木節子		元木節子		坂本達治	
	高橋武男	高林純一		橋本敬典		藤村 悠		速水忠雄
	仲 安彦	肥後逸夫		田原恵美子		伊藤京子		稲富 實
	小川廣孝		富永将人		西村哲夫		濱村昌男	
					安富哲司	小笠原勝		柴田澄彦
					福山喜久枝			
					山崎久満		小倉和子	
	外部監事	荒瀬泰子		井口万壽雄			川島秀雄	
会員監事	中村 幸	井上昭義		牛島功二		竹村仁志		大平政則

平成19年～平成25年

年度	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	30周年 平成25年
理事長	後藤達太		生田征生			鹿野 至	
常務理事	野原伸之	黒木 暁	池上博巳		松田 護		
外部理事	-	今村昭夫	織田孝二		中芝督人		
			藤村文彬				
	江頭恒夫		上野茂伸		保田哲行		
	林田正統		遠藤文彦		松田潤嗣 (平成24年4月1日より副理事長)		
	石井幸充	阿部亨	井崎 進		中島淳一郎		
会員理事	瀬野 甫				石崎哲夫		
	高野義雄	坂井佳晴			倉岡洋一郎		
	江口清一				岩男良二		
	和田克一	矢口彰英		平松敬司郎	矢口彰英		平田信治
	岡村吉員	小阪昭南		堂園完治		永富 陽	
	中村義隆				五島勲夫		
			岩本嘉宣		城千賀男		
			竹内勝治		松尾慎治		
	速水忠雄	田中邦美			樋口章子		
	稲富 實				斉藤茂材		
	濱村昌男	西嶋幾子		井上伸正			
	柴田澄彦	本田正郎			桑野孝春		
	福山喜久枝	荒木博子					
	小倉和子	大津英世		北 米雄			
	外部監事	仁井山なおみ		三浦雅子		新徳重徳	中村卓也
会員監事	大平政則	友谷捷太郎			大石雄三		岡崎幸雄

活動状況

東出張所

- ・平成6年7月 東支部開所 (東区若宮5-14-29)
- ・平成9年6月 事務所移転 (東区香椎駅前2-22-11)
- ・平成19年9月 事務所移転 (東区筥松2-1-27)

■会員数推移

(各年度3月末)

年度	男性	女性	合計
平成6年度	266	120	386
平成10年度	498	274	772
平成15年度	673	308	981
平成20年度	845	388	1,233
平成24年度	855	401	1,256



東出張所の歩みとこれからの展望

東出張所は、平成6年7月に東部支部より独立し、東支部として若宮に開所しました。開所時の会員数は、約350名でした。3年後の平成9年に香椎駅前2丁目(浜男川沿い)に移転となり、10年間お客様や会員の皆様に親しまれ定着していました。この間、平成16年には会員数1,000名を超え、最も多い会員数を擁する出張所に成長してきました。建屋の老朽化と香椎駅前の再開発により、再度移転を余儀なくされ平成19年に現在の筥松2丁目へ移転し、6年が経過しています。

筥松移転後は独自事業にも取り組み、平成20年にパソコン事業を立ち上げ、出張所で週1回の教室を開講しています。また平成22年にはシルバー農園を塩浜に開園し、シルバーフェスティバルや出張所などで無農薬で新鮮な野菜を廉価で販売し喜ばれています。

東区は平成25年9月に人口30万人を超え、人口・世帯数ともに全市で最多の区となっています。少子高齢化が進行する中で、子育て支援や家事援助、福祉サービス、剪定、除草等の民間需要の拡大が予測されます。アイランドシティが生まれて7年、照葉の街の発展と周辺整備も待たれますし、JR千早駅周辺の市街化やJR香椎駅前商店街の整備事業も進行しているため、5年後は新たな就業場所の発生に繋がるものと期待を寄せています。



感謝状を拝受した手芸同好会「ひまわり会」

互助会のサークルも6サークルが活動しています。中でも手芸同好会「ひまわり会」は、東日本大震災の被災地に手作りの防寒セット等を贈り、気仙沼市シルバー人材センターより感謝状を拝受しました。

これからも、先輩各位が築かれた立派な実績をさらに大きく積み上げていけるよう就業開拓に取り組みながら、全会員で協力し合い、前進していきます。

お客様の声

久山カントリー株式会社 様

平成12年から発注いただいている久山カントリー株式会社は、福岡市シルバー人材センターの設立25周年記念式典（平成21年1月）において、事業の発展に寄与された発注者として感謝状の贈呈を受けました。

久山カントリー倶楽部は、中村寅吉プロ・藤井武人プロ・藤井義将プロの設計・監修のもと昭和39年に設立、平成19年11月にクラブハウスとコースの改修を終了し、リニューアルオープン致しました。福岡市に隣接した久山町にあり、天神・博多駅から車で30分以内、福岡都市高速粕屋インター及び九州自動車道福岡インターから車で10分以内という好立地にあり、敷地内には天然アルカリ水の浴場やミニコース、打放し練習場、レストラン、テニスコート等の付帯設備もあり、多くのゴルフ愛好家に親しまれています。

現在、17名の会員がポーター作業やデポット修復作業に就業しています。業務管理部長の行徳様からは、「シルバーさんとは平成12年からの付き合いになります。お客様が気持ちよくプレイできるように、自ら率先して玄関前の掃除や散水などをしてくださったりと、シルバー会員の皆さんの就業姿勢には頭が下がります。これからも宜しくお願いします。」と感謝のお言葉をいただいております。



会員の声

小林真喜子会員 ～書と舞に魅せられて～

小林真喜子会員は、平成8年に入会され、現在筆耕班の班長を務められています。また、趣味の日本舞踊を会員のつどいや互助会芸能大会で披露されるなど、幅広く活躍されています。

「自宅近くにあるシルバー人材センターの看板を目にしたのが、入会のきっかけです。入会後は、好きな書道が続けるために筆耕班に籍を置きました。その他にも駐輪場の定期券発行の就業をしたり、当時の支部事務所の手伝いも短期間ですが経験しました。

事務所からの勧めで、東支部の一角に書道教室を開くことになりました。これをきっかけに会員の皆さんをはじめ多くの方々との出会いがありました。シルバー人材センターに入会し、このような出会いがあったおかげで、現在まで健康で楽しい日々を過ごしています。シルバーの会員であることが元気の源です」。

古希過ぎて 南天の紅 ことさらに 小林 真喜子

現在も筆耕班で活躍されており、そのほかに地域でも書道教室を開かれています。また、趣味の日本舞踊は、シルバー人材センターの他にさまざまな施設でも舞を披露されています。

数多く活動されて休みの時間はあるのかな？と思うほど元気な毎日を送られています。



博多出張所

- ・平成8年9月 博多支部開所 (博多区吉塚5-5-15)
- ・平成15年3月 事務所移転 (博多区千代1-21-16)

■会員数推移

(各年度3月末)

年度	男性	女性	合計
平成8年度	291	182	473
平成10年度	393	264	657
平成15年度	545	358	903
平成20年度	570	387	957
平成24年度	595	374	969



無事故の職群班・グループを委員長表彰しています

博多支部は平成8年9月に開所し、17年目になりました。

平成15年3月に現在地に移転し、平成25年4月に公益社団法人となり、名称を博多出張所に改め、再スタートしました。

現在の会員数は約1,000名になりますが、さらに会員を増やし充実・発展する方針を掲げています。また、会員の健康と安全を第一に考え、適正就業・適正受注を推進しています。

博多出張所の特色ある行事としては、

- ①博多区民の祭り「まつりはかた」に毎年参加しています。

平成24年10月に中比恵公園で催された「まつりはかた2012」は、特設ステージで音楽や踊りが披露され、飲食ゾーンにはいろいろな店が出て賑やかなお祭りとなりました。この会場内で出張所スタッフと会員が協力し、センターのPR活動を行いました。来場者にチラシを配布したり仕事の案内をするなど、多くの方にシルバー人材センターのことを紹介することができました。

- ②「安全・適正就業促進大会」で委員長表彰を行っています。

平成25年7月に開催された「安全・適正就業促進大会」では、平成18年度を基準として就業にかかる事故『0』を7年間続けている2職群班と2職群グループが委員長表彰を受けました。表彰を受けた班とグループは、就業時の安全確認や健康管理等の徹底に努め、事故『0』を7年も継続しています。このほかに、5年表彰と3年表彰も行われました。

倉岡委員長は「これからも就業開拓並びに開かれた出張所として情報公開を積極的に進め、ワンコインお助け隊事業を通して、地域と密着したシルバー人材センターを目指します」と熱く語られました。

お客様の声

新飼清人様

新飼様のご自宅を訪問してお話を伺いました。

「私は昭和25年から現在地に住み、当時からたくさんの樹木や草花を植えて美しい庭を作ってきました。松の木が4本もあって手入れが大変でしたが、今は残っていません。除草や樹木の消毒も自分で噴霧器などを使って手入れしていました。その後、私の体調が思わしくなくなり、次第に樹木を減らしてきました。

現在は、年に2回の樹木の剪定と毎月の庭や家の周囲の除草を、シルバー人材センターにお願いして約10年近くになります。

毎月除草に来られる方は60歳を過ぎておられますが、夏の暑さや虫さされに負けず最後まで丁寧な仕事をされ、きれいにしてくださるので感謝しています。私自身もあまり体が自由に動かないので、作業している同年輩の皆さんを見ると《もう、いいよ》と声をかけて労をねぎらっています」とにこやかに話を頂きました。

取材後にお庭を拝見しましたが、本当に手入れの行き届いている見事なお庭でした。ここにも、就業されている会員の汗と頑張りが、目に見える形で残っている庭園風景がありました。



会員の声

剪定班 吉村通芳会員

私は平成13年に定年退職を迎えたのち、職業能力開発促進法に基づく造園技能士の講習を6カ月間受講しました。その後シルバー人材センターに入会し、剪定班に所属して12年の月日が流れました。

当初は新たな職種のため何も分からず、ロープの掛け方から手ほどきを受けました。本部の指導と教育、先輩たちの指導の基に、一步でも早く気持ちはプロとして活躍出来るように、技能向上を目指して頑張ってきたつもりです。

早朝に家を出て、帰りはライトを灯して帰宅することもしばしばありましたが、そんな日は特に仕事をした充実感に浸っていました。剪定の仕事は、風雨・猛暑などの天候に悩まされたり、蜂や蚊、チャドクガなどの害虫と闘いながらの過酷な作業です。いかに発注者に満足して頂けるかを前提に発注者の意向を十分取り入れての作業に努めてきました。作業終了後、一杯のお茶を頂きながら発注者の満足度確かめて引き上げます。

後日、事務所に御礼や感謝の電話を頂いたり、文書をしたためて御礼の手紙まで頂いた時には、本当に良かったという安堵と満足感に溢れて、次の日の励みとなっていました。

私が今日まで頑張ってきたのは、こうした皆様方との出会いと心の触れ合いのおかげとしみじみ感謝しています。



中央出張所

- ・平成4年4月 中央支部専任体制 (中央区大手門2-5-15)
- ・平成10年1月 事務所移転 (中央区六本松1-2-22)
- ・平成25年11月 事務所移転 (中央区薬院4-1-27)

■会員数推移

(各年度3月末)

年度	男性	女性	合計
平成4年度	158	77	235
平成10年度	313	202	515
平成15年度	388	225	613
平成20年度	439	305	744
平成24年度	496	290	786



平成25年11月まで事務所のあった
福岡県社会福祉センター(中央区六本松)



中央出張所の取り組み

福岡市の中央部に位置する中央出張所は、会員の健康と安全の確保並びに就業環境の改善に取り組んでいます。中でも①安全適正就業の推進 ②事務所業務の改革 ③独自事業の研究と開発 を重点課題としています。

福岡市中央区は九州経済の中心地として日々進歩を遂げており、その都会性から駐車場管理や駐輪場管理、公園清掃、民間の剪定・除草、家事援助サービス、筆耕など多様な業種にわたっています。



なかでも駐車場管理の業務は、公共と民間を合わせて現在8ヶ所の施設を管理しており、30名ほどが就業するといった他出張所には見られない特徴があります。

駐車場管理は安全の確保が最大の課題です。就業している会員は、自身の安全確保は基より、常にお客様の安全と事故防止に留意し、全精力を注いでおります。

そのために中央出張所では、安全管理と健康をテーマにした「安全・適正就業促進大会」を開催して、安全に関する意識の高揚に努めています。また、安全講習会や安全パトロール、交通安全教室、健康診断の受診促進を重点的に実施し、事故撲滅を目指しております。

もちろん、就業している会員の自己管理が優先することは言うまでもありません。

お客様の声

(有)メガ・メガ調剤薬局 代表取締役 女賀信子 様 ～痒い所に手が届く～

小さな薬局を経営している薬剤師です。

シルバー人材センターに仕事ををお願いするのは、今回2度目の経験です。最初は、母の介護で家事に手が廻らなくなって、家事応援を頼んだのが15年程前。

それから時を経て今回私の事業継続の為、家事負担軽減策の一環としてお願いしました。

幸い会員の川田さんという素晴らしくバイタリティ溢れる方に恵まれ、どんなにか助けられています。貯まった家事がみるみる片付き、爽やかな空気の漂う部屋を毎日再現して頂き、感謝感謝です。

痒い所に手が届くと言う表現があてはまるかどうか、思いがけないところまで清潔にして頂き、プロの手技に感心しきりです。清潔な湯船に浸る時、いつも「川田さん、ありがとう!」という思いがこみあげて、感謝の念でいっぱいになります。

これからも川田さんに助けられながら、私はライフワークを完遂したいと思っております。



会員の声

中村 幸会員 ～シルバー人材センターと私～

私とシルバー人材センターとの出会いは昭和59年1月のことです。確か50代後半だったと記憶しております。

当時大手門の福祉会館にセンターが設立され、挨拶がてらに見学に行き、勧められて入会したものです。入会するなり早速仕事に就くように言われ、その最初の仕事が個人アパートの清掃作業でした。

当時は組織的にもまだ脆弱な時期で、配分金も現金支給、小呂島から毎月印鑑持参で受け取りに来ていた会員もいました。

その後様々な仕事に従事し、剪定と毛筆以外の仕事はほとんど経験しました。事務所の基幹事務を担当するようになってからは、会員のお世話をしながら、女性の就業開拓に奔走したり、女性初の総会議長を仰せつかったりと、思い出は尽きることはありません。

人は健康であれば幾つになっても生き生きと社会に携わって行ける。こうして働くことも出来るとしみじみと喜びを感じています。

気がつけば四半世紀が過ぎており、私にとってのシルバーは第三の人生そのものです。元気でいる間は、社会に役立つことを自分のためにも続けて行きたいと思っています。



南出張所

・平成7年4月 南支部開所 (南区大橋3-17-3)



■会員数推移

(各年度3月末)

年度	男性	女性	合計
平成7年度	286	133	419
平成10年度	442	192	634
平成15年度	583	273	856
平成20年度	613	334	947
平成24年度	711	369	1,080



就業拡大の道を求めて

福岡市の南端に位置する南区は、人口約25万人で11万世帯を超える福岡市で2番目に大きな地区です。住宅地にはビルやマンションが建ち並び、人口は益々増加の傾向にあります。しかし、企業や工場が少なく就業の場が公共関係を除いてはあまり期待できないため、私たち会員は知恵を出し合って、一般家庭に目を向けました。区民の要望に応えるために、家庭内の襖・障子の張り替えや網戸張りなどの受注拡大に向けて、努力を重ねようと決断しました。

当初の活動は会員4名が中心でしたが、今後の受注に対応するため、平成25年6月の蒸し暑い梅雨時に、第1回襖・障子・網戸張り講習会を開催しました。講師はこの道に長ける池田会員で、マニュアルによる技術の指導や実践練習がありました。これからも講習会を重ねていく予定です。運搬するための車両や就業場所の確保などの課題もありますが、関係スタッフに聞きますと「大丈夫です。必ず成功させますから安心してください」と意気軒昂でした。講習会の参加者は「お客様は作業をずっと見ているから、手早くしないと信用を失うからね。まずはわが家のものから練習です。」と語っていました。

開始から3時間、熱心に実地研修を受けた会員と関係スタッフからは、就業の機会を自らの手によって拡大しようという意気込みを感じました。



お客様の声

大野美保子 様



このたび福岡市シルバー人材センター設立30周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

私は主人の温かい理解と、バレエ協会の皆様のご協力により「美しく・より豊かに・より高く」の教育方針を掲げて、昭和32年に学校法人ツルタバレエ芸術学園を設立しました。まずは中央区の今泉、東区の美和台、そして数年後南区の寺塚で開校しました。

福岡市シルバー人材センター設立は昭和58年です。当時のことを思い出しますと、毎日毎日が多忙で家を留守にする、通勤は交通機関も少なくて時間の設定が難しく困っていました。そこでお手伝いして頂く方を希望していたところ、新聞広告や市政だより等でシルバー人材センターのことを知りました。当時の事務所にお電話し訪問させていただきましたと、スタッフの方たちは気持ちよく対応され承諾してくださいました。天にも昇る喜びを感じた幸運な1日でした。

それ以来、30年間もシルバーの顧客としてお世話になっています。現在ツルタバレエ南校で就業される皆さんは、シルバー人材センターの会員という自覚と責任感があり、信頼できる方々なので安心してお任せできます。

これからシルバー人材センターにおかれましても、30周年を機に尚一層の人材育成に努力されますよう期待しております。なお、私は「美を創る」ことに終生尽くしていきたいと思いをします。

会員の声

高木メグミ会員

平成10年に病気で倒れて現役を離れました。自宅で養生していましたが、時間を持て余すようになりました。福岡市発行の「市政だより」でシルバー人材センターの存在を知りました。「今までの経験や知識を生かして、地域社会に貢献し役に立つ人材になりたい」という思いがあり、平成11年1月に入会しました。

いろいろな分野の活動を紹介頂き、筆耕班に入会しました。班員は10数名で男性が多く、女性は2、3名でした。筆耕判定会で合格しないと仕事ができないといわれ、その年の6月に気軽に受験したところ、全分野とも見事に不合格でした。「他人を恐れなくて自分を信じよう」と反省し、合格するために努力目標を立てました。本部での研修会に3日間参加して、初めてレイアウト（紙面に対する字の配置）があることを学びました。レイアウトは理解しましたが、その中に入る字の形がうまくいかず、独学では難しいため通信教育や市内の教室で学びました。全国ビジネス書道認定試験に挑戦し、平成15年に1級の資格を取得しました。

シルバー人材センターで本格的に仕事をさせて頂き、書に対する考え方も勉強しました。初めての仕事は年賀はがき36枚の宛名書きで、とても緊張したことを覚えています。いろいろな企業や学校関係、個人の方々からの注文に対処し、その都度悩んだことも多々ありました。たくさんの心温まる優しい心遣いや喜ばしいお言葉に接し、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、出張所スタッフの皆さんにお世話になったことを厚くお礼申し上げます。その好意に対して頭の下がる思いばかりです。これからいつまで続けられるかわかりませんが、私のできる範囲で、少しでも筆耕班のお役に立てればと願っております。

最後になりますが、私の好きな言葉は「綱渡りをする人は、綱の先にある一点をじっと見つめるからうまくいく」です。書に勤しむ人は、集中力と心身のバランス、たゆまぬ練習量が欠かせないと思います。



城南出張所

- ・平成10年1月 城南支部開所 (中央区六本松1-2-22)
- ・平成25年11月 事務所移転 (中央区薬院4-1-27)

■会員数推移

(各年度3月末)

年度	男性	女性	合計
平成10年度	198	92	290
平成15年度	316	142	458
平成20年度	428	211	639
平成24年度	454	234	688



平成25年11月まで事務所のあった
福岡県社会福祉センター(中央区六本松)



家事援助・子育て支援の取り組み

企業の絶対数が少なく、個人住宅を多く抱える城南出張所では、剪定や除草、家事援助・子育て支援、屋内外清掃など、個人からの依頼が見込める職群を注視してきました。中でも家事援助・子育て支援は、施策として国や県、市レベルでも力を入れており、今後の需要が期待される職群の一つとして城南出張所でも力を注いでいます。

家事援助・子育て支援に関する平成23年度までのPR活動は、ポスティングによるリーフレット配布が主体でした。これに加えて平成24年度からは、城南区役所の地域保健福祉課や子育て支援課、企画振興課などが主催する健康フェアやケアマネージャー勉強会などに積極的に出向き、PR活動に努めています。また、保健所において定期的に行われている乳幼児健診に合わせて、お母さんたちにリーフレットを手渡するなどのPR活動も行っています。



その結果、平成24年度においては、家事援助は対前年度比111%、子育て支援は対前年度比177%で大きな伸びとなっています。

高齢化社会・核家族化社会にある現在、城南区では11校区それぞれが地域ぐるみで子どもや青少年の健全育成、世代間交流に取り組んでいます。城南出張所としても、今後多様化する地域社会のニーズに合わせて事業を展開していき、PR活動を積極的に行っていきたいと考えています。

お客様の声

葛城郁雄・綾子様ご夫妻

「庭を大切にするという条件で家を購入しましたし、私自身庭を気に入っていたので、維持管理には気を配っています。初めてシルバー人材センターに剪定を依頼したのは平成17年です。以来、毎年モチやマキ、ヤマモモ、カシの生け垣など大きな樹木の剪定をお願いしています。黙々と手際よく剪定されますし、掃除も丁寧で、アドバイスも的確なので助かります。手入れの行き届いた庭にいると心がなごむもので、庭先に鳥がきて餌をねだることもあります。来なくなるとどうしたのだろうと心配になります」と郁雄様は快活に話されます。



「子供のころから自然が好きで、低いツツジなどは出来るだけ自分で手を入れるようにしています。庭にいると季節の移ろいを肌で感じるができますし、新しい発見もあるので楽しいです。天気の良い日には庭を眺めながらベランダで食事をすることもありますよ」と綾子様は楽しそうに話されます。

お二人の話を聞いているだけで、庭をエンジョイされている様子がひしひしと伝わってきます。剪定後の庭を見て「さっぱりした」と褒められて悪い気はしませんし、葛城様ご夫妻のように庭を生活の一部に取り入れ、エンジョイされている姿を目の当たりにするのは、何よりまして嬉しいものです。

会員の声

山口近子会員

福岡市シルバー人材センターに入会して8年が経とうとしています。それまでは、ある会社の独身寮の寮母をしていました。定年を迎えるにあたり、家でじっとしているのも退屈だろうと思ったので、ためらうことなくシルバー人材センターに入会しました。「子育て支援」を希望したのは、長年にわたり多くの寮生に朝晩の食事を作っていたということもあって、若い人の世話には慣れていたので。



就業先での私の役割を平たく言えば、その家の“おばあちゃん”と言ったところでしょう。就業先は共働きの家庭が多く、両親のどちらかが帰宅するまで、子どもさんの夕食の準備をし、話し相手になるなどして過ごしています。この仕事で大切なことは信頼です。そのために、両親や子どもさんとコミュニケーションを密にし、プライバシーに立ち入らないように心掛けています。特にプライバシーはデリケートな問題ですから、「私の持ち場は台所」と決め、それ以外の部屋には立ち入らないように努めています。

趣味は写真撮影で、80歳を超えても、暇さえあればカメラ片手に全国に出掛けています。体力が許す限り、私に合ったこの仕事と好きな趣味を続けていこうと思っています。

早良出張所

・平成10年1月 早良支部開所（早良区百道2-1-35）

■会員数推移

（各年度3月末）

年度	男性	女性	合計
平成10年度	377	171	548
平成15年度	562	235	797
平成20年度	733	302	1,035
平成24年度	710	310	1,020



早良出張所の指針設定

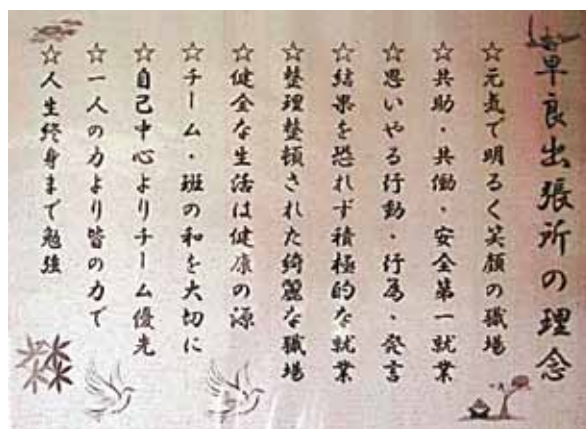
平成23年度に早良出張所の指針として、「元気で明るく笑顔のある環境づくり」などの理念が右のように設定されました。この指針の趣旨は、いろいろな会議などの集まりで説明されています。

「共働・共助」はシルバーの理念ですが、実行は容易ではありません。「共働・共助」の組織を構築するには、何が必要でしょうか。

“意識は行動を作り、行動は習慣を作り、習慣は人格を作り、人格は運命を作る”という格言があります。今更と思うでしょうが、人生終身勉強ではないでしょうか。

「共働・共助」の環境を構築するためには、いくつかの要素があると思います。健康・安全第一であることは当然ですが、班・グループの一員であることを自覚し、思いやりを持って、発言・行動する。出来るだけ明るく笑顔で振舞えば、心が通じ合うものではないでしょうか。人生最後の仕事です。どうせ仕事をするなら、良い雰囲気楽しく働こうではありませんか。楽しく働くことは、就業効率の向上と安全確保にもつながると思います。健康にも良いと思います。《和》を大切に、働きやすい環境を構築しましょう。

指針の通りにはなかなか思うように参りませんが、これからも「共働・共助」の精神を理解し実践して頂き、元気で明るく笑顔のある環境を作って欲しいものです。



お客様の声

誠和会グループ様

～地域の医療・福祉に貢献～

誠和会グループは、“誠実・信頼・継続”を理念として、「より暖かく、確かな医療・福祉を目指し、地域社会に貢献する」ことを方針に掲げて、早良区内に多くの医療・福祉施設を設けています。医療施設としては「牟田病院」があり、福祉施設も充実しており「たちばな」「けやき」「花みずき」等があります。

誠和会グループには、早良出張所から15名の会員が就業しています。誠和会の管理責任者から次のようなお言葉を頂きました。

「シルバー人材センターの皆さんには、受付・営繕・清掃・趣味の指導と多岐に渡ってお手伝い頂いています。どの仕事も長年の人生経験を生かして就業して頂いており、よい方々に来て頂いて感謝しています。中でも福祉施設ではリハビリの一環として、生け花・書道・陶芸・詩吟の教室を開いていますが、これらの指導をお願いしており施設の利用者に好評です。特に生け花を指導されている村上千鶴子さんは、指導して10年位になり利用者とも仲の良いお友達になっています。先日発行しました誠和会グループの広報誌である『誠和会通信』に“生け花に聞く”と題して文章を書いていただきました」。



誠和会グループの中核の牟田病院

会員の声

筆耕班長 久保田映光会員

早良出張所で筆耕班の班長をされている久保田映光さんにお聞きました。

早良出張所の筆耕班員は現在15名で、月に1回勉強会を開いているとのこと

です。
《仕事の内容は…》主として毛筆での宛名書き・卒業証書書き・賞状書き・掲示物書きです。

《入会の時期とその動機は…》60歳で会社を退職して直ぐの平成14年4月に、ゴルフ仲間に勧められて、これまでの経験が役に立てばと思い入会しました。

《書歴は…》鳥根県の松江に生まれて小学校時代から書くことが好きで、いろいろな大会に出品して沢山の賞を頂いてきました。しかし本格的に始めたのは15歳頃からで、就職した大阪で書道で名のある諸先生の指導を受けて勉強して来ました。30歳前に福岡へ移り、それから独自に勉強を続けています。現在シルバー人材センターの仕事以外にも市内の公民館・福祉施設等で指導しています。

《仕事の喜びは…》お客様から感謝の言葉を聞くのが嬉しい時です。

《これからの抱負は…》最近パソコンを使って賞状等を作成する傾向にありますが、皆さんに毛筆の良さを広めて行きたいと思っています。

《趣味は…》「書」も趣味の一つですが、そのほかに「陶芸」があります。10年前から続けており、週に1日は朝から晩まで土と戯れています。



活動状況

西出張所

- ・平成8年7月 西支部開所 (西区姪浜町1233-9)
- ・平成13年1月 事務所移転 (西区姪浜駅南1-10-11)
- ・平成16年7月 事務所移転 (西区姪浜4-8-28)

■会員数推移

(各年度3月末)

年度	男性	女性	合計
平成8年度	260	140	400
平成10年度	347	169	516
平成15年度	564	264	828
平成20年度	641	361	1,002
平成24年度	734	375	1,109



30周年を迎え、西区の発展とともに

昭和58年6月に当センターが設立され、西支部が西区に開所したのは平成8年7月でした。その後、事務所は三度の移転を余儀なくされ現在地に落ち着きました。そして平成24年4月に公益社団法人となり、名称を西出張所に変更しました。

福岡市の人口は、平成25年7月に150万人を突破し、30年前と比べて約1.33倍増加しています。西区においても、同じく7月に20万人を突破して、30年前の約1.70倍と福岡市全体より大幅な伸びとなっています。平成17年10月の九州大学伊都キャンパスの開校、それに先立ち平成17年9月にJR九大学研都市駅が開業するなど発展しています。また、平成18年4月に西区を管轄する西警察署が新設され、平成22年7月には今宿出張所が西部出張所と名称を改め「さいとぴあ」に開所しました。西区は地理的にも平地、丘陵地、河川、海に恵まれ、住宅のほかに多種多様な中小企業も存在しており、西出張所の事業拡大が今後も大いに期待されます。

昭和60年から福岡市より受託していた有料自転車駐車場管理業務は、指定管理者制度のもと申請しましたが不採用となり、平成18年3月を以って逸注しました。しかし再申請した5年後の平成23年4月に採用となり、姪浜駅や今宿駅、周船寺駅などの駐輪場で合わせて120名程の会員の就業の場が得られました。

さらに会員の就業先を拡大するために、役員や就業開拓員をはじめ会員一人ひとりがセンターの事業を理解し、みんなで就業先の開拓に取り組んでいくことが、今後の発展に向けての最善策であると思われれます。

お客様の声

医療法人拾六町病院理事 三宅数子 様

～シルバー人材センター三十周年をお祝いで～



拾六町病院は、30年前の福岡市シルバー人材センターが設立された当初よりお世話になっております。

設立当初は、男性会員の方々に病院敷地内の掃除等をお願いしていました。そのころ来ていただいた会員の方には色々な方がいて、敷地内の空地に勝手に玉葱を栽培されるなど驚かされることも多々ありましたが、一方ではお辞めになった後に、年賀状などをくださる方もおいででした。その後は女性会員の方々に、敷地内の掃除や草取り、また病室の掃除等をお願いして現在に至っております。

数年前、私が手術のため1ヶ月ほど入院することになりました時は、家事援助をお願いすることができ、安心して入院することができました。

こうした専門的な業者に依頼するほどではない短時間の作業をお願いできることに感謝致しております。また高齢社会の到来で、その必要性は今後さらに高まってくると思います。

会員の皆様のご健康とともに、センターの活動の益々の充実と発展を心よりお祈り申し上げる次第です。



会員の声

藤本弘道会員

周船寺駅前自転車駐車場は、平成23年4月福岡市から有料自転車駐車場管理業務を受託し、市の条例、規則、規定、運営要領等に基づき管理運営を行っております。

当駐輪場は1,147台の収容台数を有し、全体の30%強を学生の皆さんが利用しています。駐輪場の出入口が一箇所のため、毎朝の入出場時は混雑します。事故を未然に防ぐため、予め就業会員の配置を決め、息のあった整理で利用者の安全を確保しております。これまで無事故で推移していることや平成24年度お客様アンケートで一定の評価を頂いたことは、うれしい限りです。

また、平成25年の正月3日が日営業では、約400人のお客様ご利用があり一定の成果がありました。今後、西区における駐輪場管理業務は増加傾向にあります。個人情報保護を遵守し、お客様の利便性の向上と安全に安心してご利用いただくために、親切丁寧な対応でお客様サービスに努めていきます。

また私たち会員は、生き甲斐と働き甲斐を持ち、地域社会に貢献するという「自主・自立、共働・共助」のシルバー人材センターの基本理念のもと、体調管理に十分留意しながら安全第一で駐輪場運営に従事します。



30周年記念座談会

日 時：平成25年10月29日

場 所：本部会議室

出席者：石崎委員長（総務部会長）
五島委員長（総務部会副会長）
斉藤理事（業務部会長）
岡崎監事（元西区委員長）
中村会員（元早良区委員長）

進行役：松田常務理事



松田： 本日は30周年記念座談会にお集まり頂き、ありがとうございます。総務部会から正副部会長と業務部会から部会長、岡崎監事、そして歴代委員長の中から中村会員にお集まりいただきました。当センターは昭和58年に設立され、今年で30年を迎えました。今後益々発展していくための礎を、皆様に感じて頂きたいと思います。

では、最初のテーマ「出張所での出来事」について、中村会員からお願いいたします。

中村： 私は4年間早良区委員長を務めました。平成13年にRKBラジオ祭りでのシルバーフェスティバルの開催があり、早良区なので成功させたいと力が入りました。子ども連れの方も多く来場されるので、竹とんぼを作ることにし多くの人が応援に来てくれました。竹とんぼや竹馬はとても好評で喜ばれたのを今でも覚えています。手芸サークルもバラエティに富んだ作品を販売し、これも大成功でした。また、25周年記念の会員作品展もありました。絵や書道、工芸品などの出展作品を見て、様々な技術を持った会員が多く、感心しました。

五島： 早良出張所の手芸サークルは、平成25年に「高取土曜夜市」に初参加しました。年齢層が若く、高齢者向けの手芸品が売れるか心配でしたが、多くの方に来ていただき大成功でした。来年は若い人向けの品を作ろうとすでに取り組み始めています。またその後の「シルバーフェスティバル」まで時間がなかったのですが、手芸サークルの皆さんが一生懸命頑張って作品を作ってくれました。

斉藤： 3年前になりますが、川端商店街の店舗前を

借りて、全市の手芸サークルの方が中心となって手芸品を販売したのが「シルバーギャラリー」です。暑い時期で建物の中ではなかったのですが、シルバー世代にはこたえました。倉庫からの作品の出し入れも大変でした。作品を一生懸命販売されていたことは、今も記憶に残っています。観光客も含め多くのお客様に立ち寄っていただき、「シルバーってどんなところ?」「こんな仕事頼めるの?」と聞かれることもあって、普及啓発につながりました。

松田： 実際の活動を見てもらいながらの普及啓発はセンターのPRになり、非常に効果的だったと思います。出張所での出来事は、他にありませんか。

石崎： 東出張所は、3回の事務所移転がありました。平成6年若宮に東支部を開設したのですが、当時は交通手段がバスのみで不便でした。その後香椎に移転し、JRや西鉄電車の駅も近く便利になりました。しかし古い建屋だったので、台風の時は看板が飛んだり、屋根や塀もガタガタしていました。いつの台風だったか、飛んだ看板が向かいの家の車に当たり弁償したこともありました。西方沖地震の時は屋根が落ちるのではないかと心配しました。香椎駅前の再開発で立ち退くことになり、現在の筥松に平成19年9月に移転しました。

岡崎： 西支部は平成8年に早良支部から分かれて開所しました。開所当時は内浜にありました。私は平成12年に入会しましたが、それから一年後に姪浜駅南に移転しました。

駐車場も広く、倉庫も含め機能的で立派な事

務所でしたが、2～3年経ったところまた移転となり、2階建てプレハブ仮設事務所になりました。仮設のため、屋外トイレに屋外階段です。ひどい台風の際は「倒れるんじゃないかな」と当時の大平委員長と顔を見合わせ、「あの時は震度4か5はあった」と後の語り草になりました。仮設事務所で一年過ごし、現在の事務所に移りました。

松田: では、次のテーマ「思い出話」に移ります。新規事業でご苦労されたことなどお話し頂ければと思います。



松田常務理事

中村: 配食サービス事業は、平成12年4月に始まりました。準備に2か月を充ててスタートしました。私は80人の利用者を担当し、訪問先の地図を一軒一軒作りました。弁当の配達がお昼を過ぎるわけにはいきませんから、この家は裏から入るなどの細かい条件を配達会員に伝え、リハーサルも行いました。配食サービスはお弁当を配るだけでなく、安否確認という大事な仕事があります。スタートしてからは、ご利用者が自宅で倒れているのを早期に発見し助かったこともありました。

斉藤: 他でもそのようなことがありました。弁当容器は通常翌日回収ですが、3日遅れての回収が続くので、区役所に相談したところ認知症が判明したとのことでした。早めに発見することができ、大事に至らず何よりでした。

石崎: 私も最初は配食班でした。ある時ドアの前で声をかけても応答がなく、耳を澄ますと微かにうめき声がするので、119番し病院に搬送されました。後日お見舞いに行ったら、元気になられていて安心したことを覚えています。配食先は曜日によって変わるので、道順を覚えるのが大変でした。今も配食に就業する人には、「覚えるのに2か月がかかります、それよりまずは安全運転をお願いします。」と励ましています。

岡崎: 私も配食を経験しました。5階建のアパートが多く、しかもエレベーターが無くて。5階まで上がって留守、後から行ってもまた留守・・・など苦労もありました。部屋の電気は点いているのに

応答がないので、なにかあったかと交番に走ったこともあり。後日ご家族からの連絡で緊急入院していたことがわかり、ご本人も大事に至らずとのことで、ホッとしました。

斉藤: 弁当の配達、コンビニなどの参入もあり競争がますます激しくなっています。配食事業を民間業者にという意見もあるようです。今のお話のように、シルバー人材センターでは利用者とコミュニケーションを取りながら弁当を配達しており、安否確認をしっかりとやっていることをアピールしていきたいです。

私は駐輪場に3年就業しましたが、当時は今のような自転車のラックは無く、平場に並べるのが仕事でした。西新のプラリバの裏にある駐輪場を今の建物に造り替えるため、仮移転がありました。夜中に、預かっている自転車を通りの反対側の駐輪場に移しました。きつい仕事でしたが、無事移動できトラブルはひとつもありませんでした。

五島: 今後展開が心配なのは、「ワンコインお助け隊」事業です。平成25年7月にスタートし、9月末まで427件の利用がありました。3年後には全市で1万件近くにしていきたいと考えています。しかし、事務処理が大変です。利用件数が増えてくると、お助け隊登録会員も足りなくなります。登録会員は全体で2～3千人はしないと対応が難しいと思われます。課題をクリアしていき、長続きさせていきたいです。この事業がシルバー人材センターを市民に知っていただくきっかけになればと思っています。

石崎: 「ワンコインお助け隊」は、大きな新事業です。東出張所もスタート時は登録会員が揃うか心配しましたが、今のところ対応できています。さらに登録会員を増やすことも必要ですし、事業を拡大するためには対応項目を増やし期待に応えていきたいです。



石崎委員長

松田: ありがとうございます。では、将来に向けての「就業率向上」についてに移ります。

石崎: 適正就業を進めることで、新たに会員が就業でき、就業者数が増えた業務もあります。就業率を上げるには、一人でも多くの会員の就業の場を確保するために、就業先を開拓することが必要です。また、襖や畳、大工仕事、自転車修理など会員の持っている技能・技術をもっと活かすために、作業所を作りたいものです。

五島: 会員数も減少していますが、ワークシェアリングをしているにもかかわらず就業率は下がっています。ワークシェアリングにより、一人あたりの配分金は下がるわけで、そうすると会員が離れ



五島委員長

てしまうのではないかと思います。今考えなければいけないのは、剪定や除草の就業会員を増やすことです。そうすれば就業率も上がります。どうやって増やしていくかが課題です。

斉藤: 確かに、剪定は需要に十分には対応できていません。就業会員が増えれば、応えられるようになりますね。

岡崎: 会員から暑いのでできないと断られることもあり、最近は屋外作業を敬遠する傾向が見受けられます。会員の増加を図ることと並行して、事務系の仕事の就業開拓も必要ではないかと考えます。

五島: 話が飛びますが、礼儀作法のできていない方がいると逆効果になると感じています。就業率を上げるためには、会員研修が必要だと思います。

松田: ここで会員研修の話題ができましたので、次のテーマである「働きやすい就業環境・会員の接遇」に入りたいと思います。

石崎: 入会された方全員に、基本の挨拶や礼儀などの研修、いわゆる接遇研修は必要だと私も思います。

斉藤: 今さら接遇研修なんてと思われる方も多いのですが、逆の立場を勉強してみまじょうと話しています。また、剪定等の技術を要する就業には、一定期間研修でしっかり土台を築いてから現場で就業できる体制を作りたいと思います。

五島: 「現場で教育してください、育ててください」と

いっても、その余裕は就業の場にはありません。

石崎: 30年経った今、センター全体でさらなる質の向上が必要だと思います。接遇研修から技術のレベルアップのための技能研修も含めて、計画的に継続して行うべきだと考えます。

五島: 好感を持たれる体制づくりをしなければいけません。シルバー人材センターもサービス業ですから、利用者に好感をもたれなければ駄目です。

石崎: きちんとした挨拶、まずはそこからです。そして、きちんと真面目に就業する人を増やしていくことが必要です。

斉藤: 駐輪場などの公共での就業は、市民の方と接する機会が多いので接遇はとても大切です。言葉の行き違いでトラブルになることもあるので、就業会員には接遇に力を入れてもらっています。



斉藤理事

お客様へのアンケートでは好評を得ていますが、サービスというのは難しいです。サービスでしたことで事故を招く場合もあります。サービスは絶対必要ですが、十分に注意して行うことを様々な会議の場で話しています。

石崎: 東出張所では、JR香椎駅前の通行量調査を年に2回受注しています。必ず朝礼をしています。点呼して、注意事項等を確認して作業に入る。終礼も集まって無事を確認する。そういうところをきちんとするとお客様にも好印象ですし、全体が上手くいくように思います。就業する時は、始業と終業の挨拶を徹底するようにしています。

中村: 就業する上で一番気を付けるのは言葉遣いです。あとはちょっとした親切。お花を育てることが趣味の会員がおられ、駐輪場に季節の花を植えてお客様に喜ばれたことがあります。単に仕事をするだけではなく、ちょっとした工夫が本人にとってもお客様にとっても良いことであれば、そこにやりがいや生きがいを見つけることができます。シルバーでの仕事は収入でなく生きがいを持つことが目的です。どんな仕事でもその中に生きがいを見つけることができれば、良い仕

事ができると思います。

石崎: 就業場所で会員の安全と衛生面が確保されているかは、とても大事なことです。

斉藤: 安全担当理事が巡回した際、虫がいっぱいいる現場で就業していたので、管理者に駆除してもらいました。会員が怪我をしないようにとか虫に刺されないようにとか安全面にも気をつけておかないといけません。働きやすい就業環境づくりは重要です。

五島: 内部体制を確立し、環境をよくすることが必要だと思います。喧々囂々としていて、表だけいい顔してというのは駄目です。チーム内が良い環境だと自然にそれがにじみ出てくるものです。

松田: 目標に向かって団結するのがチームだと思います。接遇にしても、それを高めていくためにみんなで団結するチーム作りが重要です。

五島: すべては人の和です。これは信念ですが、和がないと成功はない。

岡崎: 「共働・共助」の精神が、もっと会員に浸透するといいいですね。

松田: 最後に、「今後のシルバー人材センター」についてです。当センターも次は40周年を迎えることとなります。今後に向けてのご意見をお願いします。

中村: 生きがいを持ってもらうのがシルバーの根本の目的で、収入目的では最初から見合いません。趣旨をしっかり理解してもらうこと、我々が会員に対してしっかり説明することが大切だと思います。



中村会員

また会員を増やすには、会員からの紹介や口コミがやはり一番だと思います。

五島: 早良出張所では、手芸サークルが月2回活動をしています。会員でなくてもいいから手芸を作りに来てくださいと言っています。連れてこられた人が会員になる、地道な活動ですがそれが一番かもしれません。

石崎: 昨年から集いに友人を誘って参加してもらうことを始めています。会員数はなかなか増えません。聞いてみますと、パートなどで働いている方

が多いです。会員の入会促進と会員の就業の場を増やすこと、両方ともやっていると難しいです。

斉藤: 会員ではない人が魅力を感じるような仕事を探して受け皿をつくれれば、入る可能性があると思います。さらに、女性にリーダー的な存在になってもらうことも必要かもしれません。女性の方が地域に根ざしていますし、口コミも上手です。女性会員を増やすには、サークル活動の充実や魅力のある就業先の開拓が必要です。

岡崎: 今の女性会員の就業先は、子育て支援や家事援助が大半を占めています。もっと他にも女性の就業の場はあると思います。



岡崎監事

松田: 女性イコール家事というような決めつけは、これからは良

くないですね。センターでも多くの女性に活躍いただきたいと思います。

石崎: 現状では、やってはいけないことやできないことが多すぎると感じます。安全や健康に支障が出るようなことはできませんが、先方との話し合いで解決できることはしていき、シルバーでできる範囲をきちんと把握し、少しでも間口が広がるようやっていくべきではないでしょうか。

斉藤: 請負ではできないとか派遣事業ではできるとかいろいろ出てきますが、そこを克服していき、仕事に結びつけることが重要だと思います。

岡崎: 会員が持っている特技や資格を活かす道を探することで、会員はもっと生き甲斐を感じるのではないのでしょうか。就業先を増やすことと7,500人を目標に会員を増やすことの両輪で考えていきたいですね。

全員: シルバーらしい魅力を作り、市民に愛されるシルバー人材センターになるように頑張りましょう。

松田: これで30周年記念座談会を終了いたします。30周年を迎えるにあたり、このような場を設けてお話を伺うことができ、感謝いたします。過去を振り返り未来を見据え、さらに40周年に向けての新たな一歩にしていきたいと思う次第です。本日は長時間に亘り、ありがとうございました。

事業実績の推移

年度	項目	受託契約件数 (件)	受託契約金額 (千円)	配分金額 (千円)	年度末会員数 (人)	年間就業延人員 (人)	年間就業実人員 (人)
昭和58年 (6月～S59.3月)		1,703	59,133	51,600	1,103	16,135	686
昭和59年		3,945	138,345	119,581	1,195	37,938	723
昭和60年		4,388	216,559	173,424	1,324	57,025	793
昭和61年		4,415	292,825	229,273	1,272	78,213	805
昭和62年		5,314	357,827	281,129	1,249	94,316	892
昭和63年		5,860	430,377	325,551	1,498	110,767	1,002
平成元年		6,456	524,955	399,073	1,639	136,431	1,187
平成2年		8,186	626,877	483,026	1,755	153,715	1,292
平成3年		8,660	711,261	540,830	1,930	170,291	1,362
平成4年		9,117	752,881	579,586	2,088	177,221	1,418
平成5年		9,145	836,427	636,917	2,083	184,304	1,463
平成6年		9,217	857,313	645,246	2,112	185,312	1,635
平成7年		11,873	979,136	730,539	2,181	208,523	1,855
平成8年		14,297	1,331,688	1,002,521	2,854	272,726	2,431
平成9年		8,646	1,588,168	1,193,927	3,339	315,496	2,749
平成10年		10,112	1,702,832	1,281,956	3,932	336,955	3,023
平成11年		11,241	1,871,948	1,411,268	4,597	382,263	3,445
平成12年		12,311	2,182,801	1,589,242	5,175	438,248	3,865
平成13年		12,952	2,137,967	1,519,912	5,125	436,483	3,951
平成14年		13,756	2,282,688	1,599,869	5,456	473,115	4,152
平成15年		14,305	2,374,933	1,673,765	5,436	499,320	4,550
平成16年		14,438	2,403,993	1,708,696	5,805	516,453	4,520
平成17年		14,230	2,526,062	1,828,918	5,938	562,276	4,695
平成18年		14,533	2,397,158	1,733,907	5,957	547,400	4,617
平成19年		14,359	2,449,873	1,777,330	6,092	560,977	4,696
平成20年		14,261	2,350,899	1,710,750	6,557	543,272	4,934
平成21年		14,739	2,287,811	1,672,125	7,005	536,333	5,077
平成22年		14,302	2,236,429	1,633,357	7,050	532,811	5,338
平成23年		14,409	2,079,962	1,693,760	6,966	512,775	5,443
平成24年		14,746	1,961,529	1,572,594	6,908	479,508	5,157

予算決算の推移

年度	項目	収入				支出		
		会費収入	補助金収入	事業収入	合計(その他含む)	事業費	管理費	合計(その他含む)
S58	予算額	810,000	20,799,000	59,391,000	92,445,000	61,035,000	23,269,000	92,445,000
	決算額	1,009,100	19,658,079	59,132,658	91,084,735	58,017,995	22,005,818	87,846,617
S59	予算額	1,330,000	29,149,000	137,028,000	182,705,000	133,766,000	33,194,000	182,705,000
	決算額	1,055,200	28,367,097	138,345,374	182,201,551	132,907,178	31,753,015	179,202,637
S60	予算額	1,450,000	36,851,000	213,845,000	272,697,000	208,945,000	41,960,000	272,697,000
	決算額	1,103,000	35,967,095	216,559,386	271,313,556	206,728,634	40,279,386	264,899,600
S61	予算額	1,440,000	40,999,000	332,499,000	396,751,000	323,553,000	49,867,000	396,751,000
	決算額	1,375,500	40,926,736	292,824,918	356,324,740	284,282,434	48,740,703	354,627,096
S62	予算額	1,350,000	45,953,000	357,787,000	413,551,000	348,170,000	55,715,000	413,551,000
	決算額	1,398,000	44,982,343	357,827,432	412,703,337	347,223,121	54,160,639	410,848,190
S63	予算額	1,548,000	58,993,000	430,285,000	490,873,000	417,332,000	70,221,000	490,873,000
	決算額	1,550,900	57,855,529	430,377,392	489,826,552	417,071,495	68,790,153	489,163,584
H 1	予算額	1,810,000	104,814,000	514,815,000	621,472,000	501,198,000	116,374,000	621,539,000
	決算額	1,583,400	101,734,851	524,955,234	628,528,857	507,348,392	112,341,610	622,720,560
H 2	予算額	2,177,000	111,457,000	582,754,000	698,965,000	569,397,000	126,006,000	713,896,000
	決算額	1,992,900	108,994,316	626,877,285	741,044,570	606,735,169	122,668,559	734,962,646
H 3	予算額	2,504,000	115,913,000	716,935,000	847,302,000	697,290,000	131,936,000	868,315,000
	決算額	2,082,200	113,914,954	711,261,553	839,907,178	687,160,601	128,194,659	834,712,611
H 4	予算額	2,588,000	127,884,000	789,446,000	934,923,000	766,503,000	145,578,000	961,131,000
	決算額	2,190,800	123,060,193	752,881,179	893,476,994	729,357,482	140,887,827	891,342,920
H 5	予算額	3,890,000	138,417,000	829,645,000	995,038,000	790,908,000	182,811,000	1,023,380,000
	決算額	3,484,400	130,394,222	836,426,884	992,472,061	788,668,842	172,471,796	999,278,926
H 6	予算額	3,980,000	136,311,000	844,000,000	1,015,292,000	813,739,000	191,470,000	1,036,292,000
	決算額	3,795,600	127,732,829	857,313,313	1,016,871,265	816,137,174	177,697,916	1,018,736,655
H 7	予算額	4,650,000	131,451,000	921,700,000	1,080,402,000	897,676,000	166,086,000	1,100,402,000
	決算額	3,625,200	124,968,299	979,135,770	1,127,987,839	944,401,418	163,174,587	1,129,576,005
H 8	予算額	5,100,000	158,796,000	1,259,000,000	1,447,997,000	1,216,162,000	208,249,000	1,467,997,000
	決算額	4,293,450	156,902,345	1,331,688,011	1,516,623,745	1,266,792,189	206,704,251	1,499,927,852
H 9	予算額	6,250,000	176,982,000	1,650,000,000	1,860,833,000	1,593,407,000	241,638,000	1,895,833,000
	決算額	5,311,500	168,263,001	1,588,167,969	1,789,344,860	1,519,014,742	228,919,150	1,779,373,451
H 10	予算額	6,680,000	171,645,000	1,820,000,000	2,025,926,000	1,775,332,000	244,602,000	2,070,926,000
	決算額	6,085,050	159,997,283	1,702,831,642	1,895,383,361	1,656,690,654	223,505,889	1,910,834,142
H 11	予算額	7,580,000	184,676,000	1,862,000,000	2,081,057,000	1,799,149,000	260,478,000	2,110,057,000
	決算額	6,781,350	174,039,964	1,871,947,677	2,079,216,473	1,801,972,550	241,247,892	2,072,435,003
H 12	予算額	8,660,000	214,085,000	2,100,000,000	2,351,446,000	2,031,351,000	300,925,000	2,387,446,000
	決算額	8,022,450	207,017,969	2,182,800,810	2,425,720,578	2,106,464,144	284,117,062	2,422,305,831
H 13	予算額	9,740,000	194,792,000	2,260,000,000	2,492,233,000	2,196,681,000	281,746,000	2,531,233,000
	決算額	8,329,500	183,701,272	2,137,967,471	2,357,497,549	2,062,144,877	260,390,357	2,355,008,479
H 14	予算額	9,500,000	183,372,000	2,283,050,000	2,503,623,000	2,206,828,000	287,371,000	2,545,623,000
	決算額	8,878,050	163,342,084	2,282,687,885	2,483,480,565	2,188,069,179	259,494,404	2,478,544,453
H 15	予算額	10,320,000	185,328,000	2,368,800,000	2,590,649,000	2,305,816,000	283,334,000	2,636,649,000
	決算額	9,812,850	164,145,330	2,374,933,154	2,548,918,521	2,276,696,312	255,470,086	2,542,166,398
H 16	予算額	10,410,000	172,488,000	2,398,200,000	2,581,299,000	2,364,454,000	255,042,000	2,634,299,000
	決算額	10,312,600	159,919,328	2,403,993,413	2,574,343,933	2,339,549,402	232,460,855	2,585,010,257
H 17	予算額	11,090,000	168,687,000	2,524,900,000	2,765,248,000	2,485,344,000	243,167,000	2,808,248,000
	決算額	10,905,600	152,431,883	2,526,062,026	2,750,872,729	2,449,945,007	221,583,913	2,750,920,280
H 18	予算額	12,076,000	160,367,000	2,407,400,000	2,580,144,000	2,367,400,000	233,555,000	2,600,955,000
	決算額	11,200,175	129,723,037	2,397,157,503	2,538,290,408	2,318,873,876	191,885,397	2,510,759,273
H 19	予算額	11,976,000	157,516,000	2,482,200,000	2,651,983,000	2,436,111,000	249,230,000	2,685,341,000
	決算額	11,456,400	139,322,367	2,449,873,183	2,601,249,943	2,358,702,148	218,667,386	2,577,369,534
H 20	予算額	11,918,000	156,068,000	2,396,300,000	2,564,677,000	2,360,140,000	230,362,000	2,590,502,000
	決算額	11,866,950	143,544,191	2,350,899,505	2,511,223,007	2,285,137,657	209,289,662	2,494,427,319
H 21	予算額	12,189,000	148,044,000	2,304,954,000	2,465,578,000	2,280,040,000	229,143,000	2,509,183,000
	決算額	12,839,700	139,388,109	2,287,811,302	2,441,003,507	2,232,064,112	210,407,648	2,442,471,760
H 22	予算額	13,691,000	139,869,000	2,299,765,000	2,454,358,000	2,456,025,000	28,721,000	2,484,746,000
	決算額	13,467,150	137,846,006	2,236,429,214	2,389,161,269	2,358,365,148	25,803,510	2,384,168,658
H 23	予算額	9,184,000	106,464,000	2,181,354,000	2,297,840,000	2,271,861,000	39,110,000	2,310,971,000
	決算額	9,080,200	106,464,000	2,079,962,191	2,199,091,853	2,144,200,703	35,296,137	2,179,496,840
H 24	予算額	8,936,000	104,504,000	1,953,916,000	2,069,018,000	2,038,985,000	30,033,000	2,069,018,000
	決算額	8,835,000	101,938,145	1,961,529,007	2,074,940,307	2,022,305,440	27,134,109	2,049,439,549

※平成18年度、平成22年度で会計基準に変更あり

会員・発注者アンケート

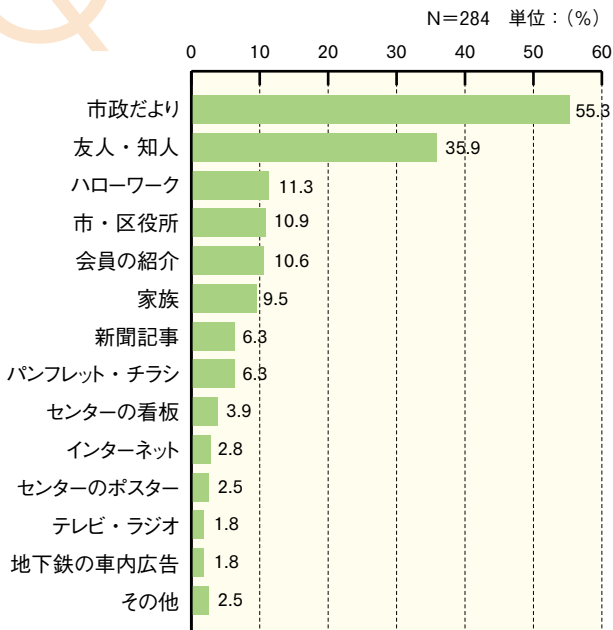
センターの会員及び発注者（個人・家庭、事業所）に対し、センターでの活動状況やセンターへの要望などについてアンケートを実施しました。

（実施期間 平成21年7月9日～8月17日）

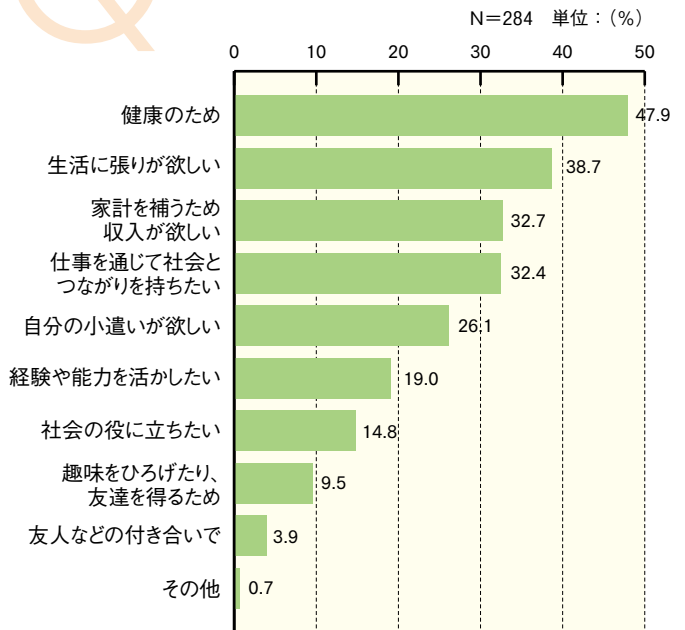
センターに入会した動機など

注：N=の数値は、回答者数を示す。以下同じ。

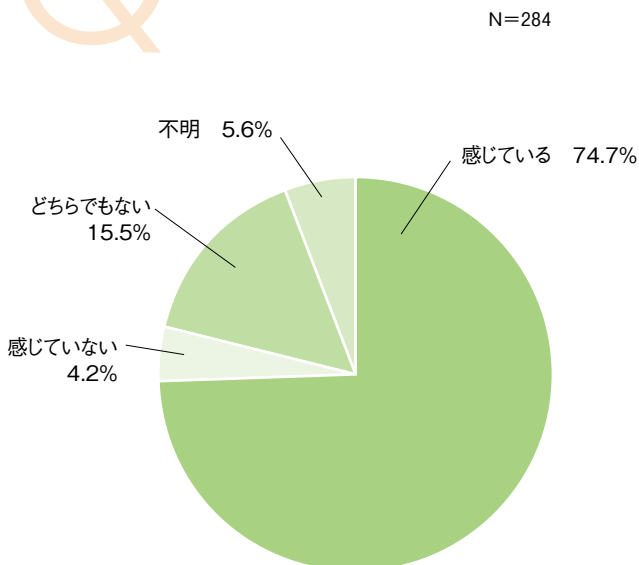
●福岡市シルバー人材センターを 何で知りましたか？（複数回答）



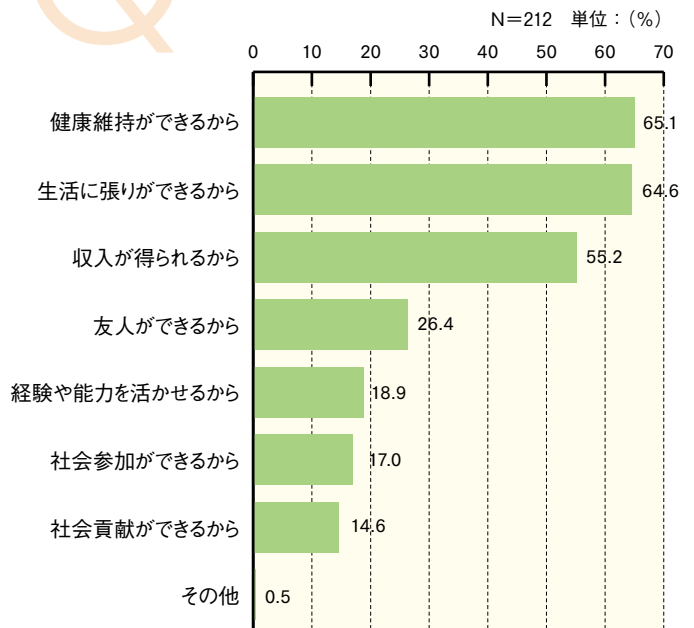
●センターに入会した 主な動機はなんですか？（複数回答）



●センターに入会して、生きがいを感じていますか？（単一回答）



●生きがいを「感じている」のは、 どのような理由からですか？（複数回答）

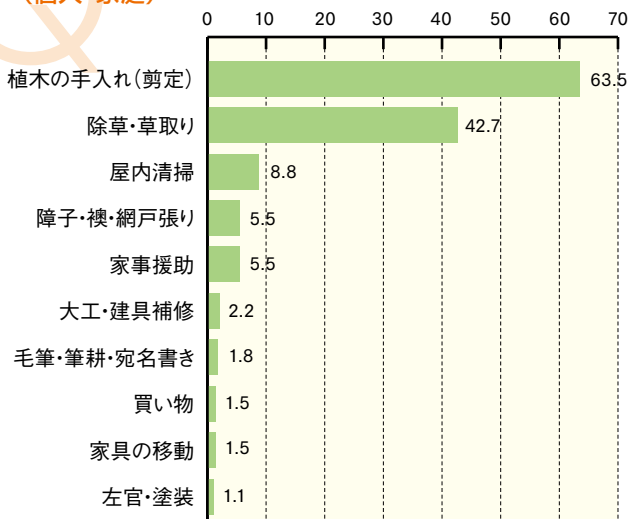


発注者意識調査からみた事業の現状

●シルバー人材センターに依頼した仕事（複数回答/上位10位）

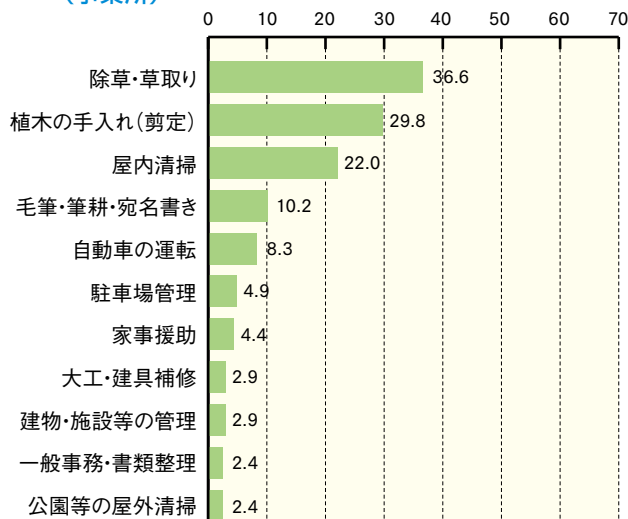
(個人・家庭)

N=253 単位：(%)



(事業所)

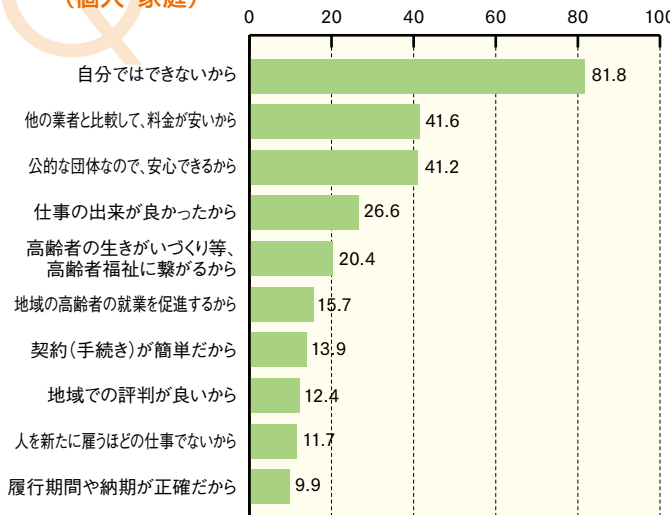
N=181 単位：(%)



●シルバー人材センターに仕事を依頼した理由（複数回答/上位10位）

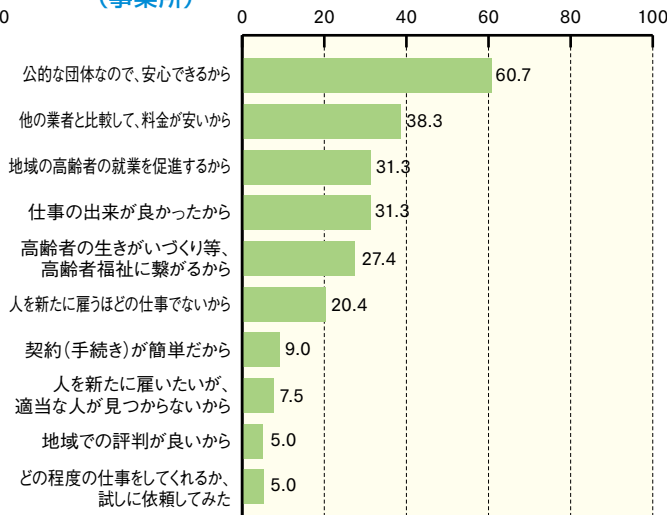
(個人・家庭)

N=208 単位：(%)



(事業所)

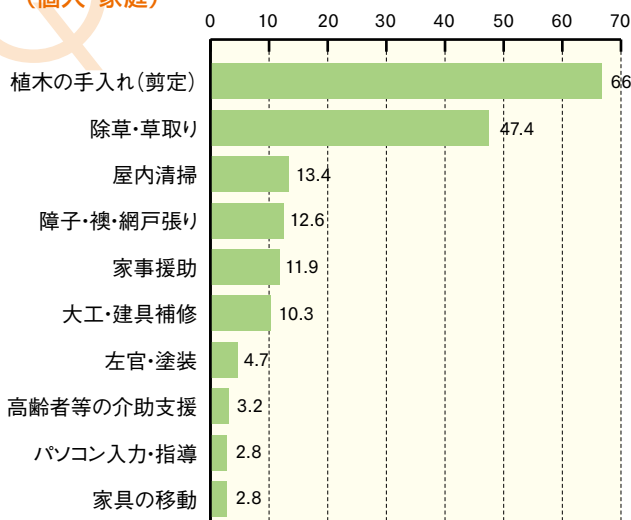
N=281 単位：(%)



●シルバー人材センターに依頼したい仕事（複数回答/上位10位）

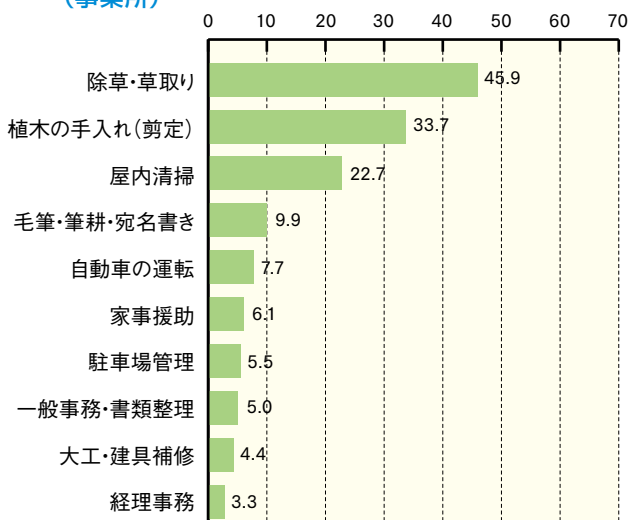
(個人・家庭)

N=253 単位：(%)



(事業所)

N=181 単位：(%)



互助会活動

平成5年4月に福岡市シルバー人材センター10周年記念事業の一環として、会員の相互扶助及び福利厚生を図るため「シルバー互助会」が発足しました。

平成24年4月に公益社団法人に移行した後は、センターから独立し、会長、代表幹事、運営委員で構成する運営委員会を立ち上げ、会員の互助会費で運営しています。

会員の健康増進や会員相互の親睦融和を図るために、サークル活動や親睦活動（日帰り旅行・ハイキング・歴史探訪・芸能大会・料理講習会）、慶弔活動などの厚生事業に取り組んでいます。

・サークル活動

(平成25年度)

互助会サークル	東 区	パソコン同好会(A班)/手芸同好会「ひまわり会」/東グランドゴルフ/イーストグリーン会(ゴルフ)/囲碁同好会/将棋愛好会
	博多区	歌ごころの会(カラオケ)/博多釣り倶楽部/手芸家事親睦同好会/天元会(囲碁)/日向ひよっこ会(ひよっこ踊り)
	中央区	グリーン会(ゴルフ)/和楽クラブの会(手芸)/仲よし料理教室会/俳句の会「鴻臚」/歩こう会
	南 区	みなみニコニコ会(ゴルフ)/カラオケ愛好会「雲雀」/ボウリング同好会/みなみパソコン同好会/社交ダンスクラブ/コスモス会(手芸)
	城南区	城南山歩の会/手芸サークル「まんさくの会」/グランドゴルフ愛好会/楽しく歩こう会
	早良区	室見駐輪場ソフトボール部/早良区駐輪場囲碁同好会/遊友会(ゴルフ)
	西 区	芝遊会(ゴルフ)/なかよしカラオケクラブ/西区元気歩こう会/ふようの会(手芸)

・親睦活動

・親睦旅行 (出張所ごとに実施)



城南出張所



中央出張所

・料理講習会



・歴史探訪



・ハイキング



・芸能大会



編集後記

公益社団法人福岡市シルバー人材センター設立30周年にあたり、記念事業の一環として30周年記念誌が皆様にご協力いただき、刊行できましたことを大変喜ばしく思います。

記念誌の作成にあたりましては、ページの都合上、十分に意を尽くすことができなかった部分もあります。この場を借りてお詫び致します。

また、お忙しい時期にもかかわらず、ご寄稿頂きました方々をはじめ、写真や資料の収集など多くの皆様方からご理解とご協力をいただきましたこと心から感謝申し上げます。

最後に、公益社団法人福岡市シルバー人材センターのさらなる発展と皆様のご健勝をお祈りいたします。

30周年記念誌編成委員会 一同



30周年記念誌編成委員

西区 岩本 嘉宣	早良区 高橋 勉	城南区 藤 勇三	東区 安武 和芳	事務局長 湊 清隆
中央区 大津 英世	南区 高濱 一郎	専任担当理事 桑野 孝春 (委員長)	専任担当理事 樋口 章子	博多区 松井 洋治

公益社団法人 福岡市シルバー人材センター 30周年記念誌

【発行日】 平成26年1月31日

【発行】 公益社団法人 福岡市シルバー人材センター
〒812-0044 福岡市博多区千代1丁目21-16
☎(092)643-8200 FAX(092)643-5000

【編集】 30周年記念誌編成委員会

